

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500365		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホームファミリア 1F(フローレンス)		
所在地	仙台市泉区南光台7丁目1-21		
自己評価作成日	令和3年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人一人に添った介護サービスが提供できます様に、毎月のカンファレンス及び日々の状態変化等を申し送りを通じて職員が共有し安定したサービスが提供できるよう努めております。毎日、午前・午後に残存機能維持を目的に、日常生活リハビリ・レクリエーション又音楽療法に特に力を入れ行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人一秀会で、本部が栗原市にあり、宮城県内と一関市で介護老人保健施設や有料老人ホーム、グループホームなどを運営している。事業所は仙台市の北東部に位置し、同法人の老人保健施設が隣接し連携している。近隣には市民センターや児童館、交番も近い。事業所の特徴ある取り組みとして1点目は、隣接する同法人の老人保健施設に食事提供を委託したことで、事業所職員が調理に関わる時間を介護に専念できるようになった。もう1点は、夜間や災害時の協力体制についてであり、夜間帯の職員体制は各ユニット1人ずつの配置であるが、隣接する老人保健施設職員と連携を図っていることで、利用者や家族のみならず職員にとっても安心に繋がっている。これら、どちらの取り組みも同法人の施設が隣接し普段から連携していることで実現されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホームファミリア ）「ユニット名 フローレンス 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を根拠に事業所理念を作成し日々業務時に理念共有し実戦に繋げております	理念の「いつもおそばの気持ちで接します。」を大切にし、朝礼の際に唱和をしている。日々、利用者が楽しく暮らせ、健康や暮らしに伴う不安を払拭するようケアに努めながら理念を活かし取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で地域とのつながりも希薄にはなっておりますがホームページ等を通じ問い合わせ等には応じております。	町内会に加入し、会長が運営推進委員のメンバーに就いている。コロナ禍のため、地域との積極的な触れ合いは自粛している。地域包括支援センターとの共同で認知症についての相談窓口を開設するなど、地域の中での役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社団法人認知症家族の会に入会し事業所としての取り組みを発信しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で地域とのつながりも希薄にはなっておりますがホームページ等を通じ問い合わせ等には応じております。	例年は、地域包括職員、町内会長、民生委員、認知症家族の会のメンバー、家族代表、管理者、職員の参加で開催している。コロナ禍で、現在は対面での会議は開催を自粛している。	コロナ禍ではあるが、運営推進会議開催の代替えとして、メンバーに事業所の取り組みや状況を文書にて報告し、意見交換ができることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中で地域とのつながりも希薄にはなっておりますがホームページ等を通じ問い合わせ等には応じております。	市職員とは介護保険制度改正についての不明な点について問い合わせを行ったり、随時報告や情報を得ている。県や市が開催するオンライン研修に参加している。地域包括支援センターには事業所の空室状況について情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期研修の中で身体拘束について勉強会を行っております。	身体拘束適正化の指針を作成しているが、委員会の開催はしていない。現在は「身体拘束対策勉強会」を定期的に行っており委員会の役割を担っている。開催時には、ケア内容が身体拘束に該当していないか確認し、対応策を検討し予防に繋げている。また、身体拘束を防止する取り組みとして、職員がストレスを溜め込まないよう、管理者は個人面談を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修の中で高齢者虐待防止の為の勉強会を行っております。	虐待防止委員会は開催していないが、毎月、虐待防止について勉強会を開催している。虐待の前兆と思われる行為（声掛け時の声の大きさ、車いすの速度等）については、その都度管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症家族の会で行った権利擁護と日常生活支援事業については職員全体での把握・活用は行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約については重要事項説明を通じ理解・納得の上行っております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関し、苦情・相談及び要望・希望については地域運営推進会議の中で家族代表様から意見を頂戴し実践しております。	玄関には意見箱を設置し、定期的に確認している。家族会づくりについては賛否の意見があり、結成されていない。家族の意見は通院の際、付き添いなどで来訪した時に意見・要望を聞いている。家族からは外出支援や事業所からの情報発信を望む声が出された。	家族などに向けて、「事業所たより」等で、利用者や事業所についての情報が定期的に発信されることを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス会議の中で意見、提案を発信する場を設けております。	全職員が事業所の運営について話し合う「グループホーム会議」を設けている。職員は環境、行事等の委員会に所属し、運営に関わっている。年1回、管理者は職員と個人面談を行い、意見を聞いたり異動等の要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の法人代表への報告会において現状の問題点、改善点等を報告しております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仙台圏の同法人事業所が集まり研修会を開き認知症介護勉強会にも参加しております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	開設前後から他の事業所、施設等と交流する機会を設けネットワーク作りに努めております。	同法人が運営している4つのグループホームと情報交換を行っている。食事提供についての違い(独自調理と外部委託他)があり、運営改善に繋げている。また、合同で研修会を開催し、職員のスキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント又入居時の契約時に生活歴等を詳しく書面に記入して頂き日々のケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のアセスメントから困難な支障をお聞きしサービスに繋がられるよう職員間で共有しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時又は入居後に他のサービス利用を検討し実践しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人々認知症状も違う中で基本、寄り添う気持ちで接し、信頼関係の構築に努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活理念のもと、ともにを念頭に御家族様には面会、外出をお願いしております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人間関係においては、ご本人の意見を尊重し支援に努めるようにしております。	家族の協力を得て「人生経歴書」作成し、これまでの生活歴や習慣を職員間で情報共有している。コロナ禍のため、家族による定期受診以外の外出を自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状も違う中で社会生活継続の理念を念頭に介在する場面においては支援するべく努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、随時連絡可能の説明を行い関係性が途切れる事のないように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状の思いを職員共有のもと日々のケア、声かけにおいて実践しております。	日常会話や関りの中から思いを汲み取るよう努めている。入浴時など、職員と利用者が一対一になる時々に発せられるつぶやき等は「申し送りノート」に記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の契約時に、これまでの生活歴、人生歴を御家族様から書面に記入して頂き職員共有のもとケアを開始しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人〃を職員が担当し毎月のカンファレンスにおいて変化、現状維持等を話し合い支援に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいてお一人〃を職員が担当しモニタリングを行い介護計画に反映できるように努めております。	利用者一人ひとりについての課題検討用紙、人生経歴書などを活用し、介護計画書作成に反映している。毎月、居室担当者がモニタリングを行い、介護計画担当者と情報を共有し、3ヶ月毎に介護計画の評価を行っている。家族や看護師、主治医からも意見を聞き反映している。『介護は向き合うのではなく寄り添うことが大切』と、認識しながら介護計画を作成している。作成後は、家族に送付し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、変化等を帳票記入し申し送り等を通じて情報共有し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に、外来受診等を御家族様にお願いしておりますが都合上困難な場合は職員が対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	南光台地域包括支援センター定期交流の場において地域資源の把握に努めております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、変化等を介護サマリー提出など行い適切な医療を受けられるように努めております。	入居前からのかかりつけ医に家族が付き添い受診している。受診時には、利用者の状態等の情報提供を行っている。状況により家族の代わりに職員が同行し受診する場合もある。訪問歯科も受診できるように連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護ST看護師の来所時に、変化、報告を行い必要時の受診依頼や看護を受けられる体制に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	開設前後から医療機関との関係作りを始め受け入れ態勢の報告等、関係作りを構築しております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時においてご家族、ご本人が望まれる終末期において希望を取り入れるべく説明しております。	看取り指針を作成し、入居時に説明を行い看取りを行っている。主治医が終末期と判断した際、カンファレンスを行い体制を整えている。状態に合わせて往診もできるよう地域のクリニックとの連携も図っている。看取り期は、往診医、看護師、職員間で情報共有を行い、家族の面会や付き添いが出来るよう支援している。看取り後は職員間で振り返りを行い、改善点を見つける機会を設け、ケアの質の向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時の救急訓練を始め定期研修の中で行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練等を通じ職員全体が認識できるように努めております。	火災・風水害等のマニュアルが整備されている。自力での避難が難しい利用者を避難させる訓練や連絡網の確認を行っている。隣接の老人保健施設とは、共同で備蓄や緊急時に備えた学習会を行うなど、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期研修(接遇)において理解を深め、又日々の関りの中での声かけ等には十分に留意しております。	隣接する同法人の施設と合同で、プライバシーの保護・人権尊重について研修会を開催している。併せて、接遇をテーマに介護福祉サービス業としての心構えや対応についても学んでいる。「ちょっと待ってね」など、スピーチロックの事例を上げ、改善策を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いが表現出来るように普段から関係性作りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先ではなく、ケア優先の必要性を日々職員間で共有し実践しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る部分を阻害する事無く状態に合わせた支援に努めております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分の見極め、状態に合わせた食事の提供に努めるべく行っております。	事業所開所時に、食事提供方法について(独自調理や委託)検討し、その結果、隣接する同法人の施設に委託し提供している。職員は食事作りなどの時間が無くなり、利用者の介護に専念できている。利用者が茶碗ふきなど、出来ることに関われるように支援している。利用者が希望した「ねぎとろ丼」を取り入れた際に、食欲が戻ったとのエピソードもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食事を提供し状態に合わせたカロリーが摂取出来るよう栄養補助食品等を使用し体調維持に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時に応じ訪問歯科診療を受け出来る部分を阻害する事無くケアの実践をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なポータブルトイレを使用する事無く出来る部分を阻害する事無く排泄が出来るように支援しております。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを確認し、タイミングに合わせトイレ誘導している。利用者一人ひとりの状態に合った排泄グッズを活用している。便秘傾向の人には乳製品を摂り入れたり、状態によっては医師から処方された薬を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケア記録、申し送り等から排泄状況を把握して必要時に排便を促すお茶等の提供と日々の体操を行っております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調から又は拒否等もあり定期入浴ができない場合、又は希望に沿った入浴が出来るよう柔軟な支援に努めております。	週2回を基本に午前中、入浴支援を行っている。浴槽をまたぐことが出来ない人や、膀胱留置カテーテルを使用している人には、シャワーチェアを使用し安全に配慮しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた就寝時間帯の支援、安心できる環境と声かけに努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会の委員が処方箋管理を行い処方薬変更の場合の職員共有に努め、用法、用量については職員全体が共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、笑顔が出せるような、雰囲気作り、楽しみを日々の関り、又はレクリエーション・活動で行っております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	閉鎖的になりがちなホーム生活を御家族と協力しながら本人の希望が叶えられますよう支援を行っております。	コロナ禍のため、定期受診以外の外出は行っていない。コロナ禍以前は、近隣を散歩したり、市民センターの図書室に本を借りに出掛けるなどの外出支援をしていた。また、隣接の施設と連携し送迎バスにより花見や多賀城の菖蒲園にも出掛けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金体制は行っていませんが少額のお金を所持する事は厭わず支援に努めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からのお手紙、馴染の関係からの封書等の支援を行っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に合わせた居室ドアの不快な光等を遮り共有スペースにおいては季節感が味わえるように配慮しております。	新型コロナウイルス感染症予防のために非接触体温計、アルコール手指消毒を設置し、感染対策を徹底している。テーブルが分割可能となっており、いろいろな形を作ることができ、利用者同士の相性を考慮して席の配置を決めている。共用空間は夜間も照明を点けるなど、緊急時でも危険がないよう安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置等、利用者様に合わせて提供出来るように支援を行っております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人に合わせた家具等が使用できるよう説明し好みに合わせた配置等を行っております。	居室には低床型ベッド、クローゼット、洗面台が設置されている。自宅で使用していた馴染みタンスなどを持参している。居室の入り口には利用者の表札があり、自分の居室がわかりやすいように配慮している。室内は、利用者の手作りした作品など自由に飾られている。褥瘡予防に重度者用のエアーマットレスが準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、居住スペースのバリアフリーはもとより状態に合わせ自立した生活が出来るような構造になってます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500365		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホームファミリア 2F(セルバ)		
所在地	仙台市泉区南光台7丁目1-21		
自己評価作成日	令和3年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人〃に添った介護サービスが提供できます様に、毎月のカンファレンス及び日々の状態変化等を申し送りを通じて職員が共有し安定したサービスが提供できるよう努めております。
毎日、午前・午後に残存機能維持を目的に、日常生活リハビリ・レクリエーション又音楽療法に特に力を入れ行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人一秀会で、本部が栗原市にあり、宮城県内と一関市で介護老人保健施設や有料老人ホーム、グループホームなどを運営している。事業所は仙台市の北東部に位置し、同法人の老人保健施設が隣接し連携している。近隣には市民センターや児童館、交番も近い。事業所の特徴ある取り組みとして1点目は、隣接する同法人の老人保健施設に食事提供を委託したことで、事業所職員が調理に関わる時間を介護に専念できるようになった。もう1点は、夜間や災害時の協力体制についてであり、夜間帯の職員体制は各ユニット1人ずつの配置であるが、隣接する老人保健施設職員と連携を図っていることで、利用者や家族のみならず職員にとっても安心に繋がっている。これら、どちらの取り組みも同法人の施設が隣接し普段から連携していることで実現されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホームファミリア ）「ユニット名 セルバ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を根拠に事業所理念を作成し日々業務時に理念共有し実践に繋げております。	理念の「いつもおそばの気持ちで接します。」を大切にし、朝礼の際に唱和をしている。日々、利用者が楽しく暮らせ、健康や暮らしに伴う不安を払拭するようケアに努めながら理念を活かし取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で地域とのつながりも希薄にはなっておりますがホームページ等を通じ問い合わせ等には応じております。	町内会に加入し、会長が運営推進委員のメンバーに就いている。コロナ禍のため、地域との積極的な触れ合いは自粛している。地域包括支援センターとの共同で認知症についての相談窓口を開設するなど、地域の中での役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社団法人認知症家族の会に入会し事業所としての取り組みを発信しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で地域とのつながりも希薄にはなっておりますがホームページ等を通じ問い合わせ等には応じております。	例年は、地域包括職員、町内会長、民生委員、認知症家族の会のメンバー、家族代表、管理者、職員の参加で開催している。コロナ禍で、現在は対面での会議は開催を自粛している。	コロナ禍ではあるが、運営推進会議開催の代替えとして、メンバーに事業所の取り組みや状況を文書にて報告し、意見交換ができることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中で地域とのつながりも希薄にはなっておりますがホームページ等を通じ問い合わせ等には応じております。	市職員とは介護保険制度改正についての不明な点について問い合わせを行ったり、随時報告や情報を得ている。県や市が開催するオンライン研修に参加している。地域包括支援センターには事業所の空室状況について情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期研修の中で身体拘束について勉強会を行っております。	身体拘束適正化の指針を作成しているが、委員会の開催はしていない。現在は「身体拘束対策勉強会」を定期的に行い委員会の役割を担っている。開催時には、ケア内容が身体拘束に該当していないか確認し、対応策を検討し予防に繋げている。また、身体拘束を防止する取り組みとして、職員がストレスを溜め込まないよう、管理者は個人面談を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修の中で高齢者虐待防止の為に勉強会を行っております。	虐待防止委員会は開催していないが、毎月、虐待防止について勉強会を開催している。虐待の前兆と思われる行為(声掛け時の声の大きさ、車いすの速度等)については、その都度管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症家族の会で行った権利擁護と日常生活支援事業については職員全体での把握・活用は行っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約については重要事項説明を通じ理解・納得の上行っております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関し、苦情・相談及び要望・希望については地域運営推進会議の中で家族代表様から意見を頂戴し実戦しております。	玄関には意見箱を設置し、定期的に確認している。家族会づくりについては賛否の意見があり、結成されていない。家族の意見は通院の際、付き添いなどで来訪した時に意見・要望を聞いている。家族からは外出支援や事業所からの情報発信を望む声が出された。	家族などに向けて、「事業所たより」等で、利用者や事業所についての情報が定期的に発信されることを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス会議の中で意見、提案を発信する場を設けております。	全職員が事業所の運営について話し合う「グループホーム会議」を設けている。職員は環境、行事等の委員会に所属し、運営に関わっている。年1回、管理者は職員と個人面談を行い、意見を聞いたり異動等の要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の法人代表への報告会において現状の問題点、改善点等を報告しております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仙台圏の同法人事業所が集まり研修会を開き認知症介護勉強会にも参加しております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	開設前後から他の事業所、施設等と交流する機会を設けネットワーク作りに努めております。	同法人が運営している4つのグループホームと情報交換を行っている。食事提供についての違い(独自調理と外部委託他)があり、運営改善に繋げている。また、合同で研修会を開催し、職員のスキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント又入居時の契約時に生活歴等を詳しく書面に記入して頂き日々のケアに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のアセスメントから困難な支障をお聞きしサービスに繋がられるよう職員間で共有しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時又は入居後に他のサービス利用を検討し実践しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人々認知症状も違う中で基本、寄り添う気持ちで接し、信頼関係の構築に努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活理念のもと、ともにを念頭に御家族様には面会、外出をお願いしております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人間関係においては、ご本人の意見を尊重し支援に努めるようにしております。	家族の協力を得て「人生経歴書」作成し、これまでの生活歴や習慣を職員間で情報共有している。コロナ禍のため、家族による定期受診以外の外出を自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状も違う中で社会生活継続の理念を念頭に介在する場面においては支援するべく努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、随時連絡可能の説明を行い関係性が途切れる事のないように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状の思いを職員共有のもと日々のケア、声かけにおいて実践しております。	日常会話や関りの中から思いを汲み取るよう努めている。入浴時など、職員と利用者が一対一になる時々に発せられるつぶやき等は「申し送りノート」に記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の契約時に、これまでの生活歴、人生歴を御家族様から書面に記入して頂き職員共有のもとケアを開始しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人〃を職員が担当し毎月のカンファレンスにおいて変化、現状維持等を話し合い支援に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにおいてお一人〃を職員が担当しモニタリングを行い介護計画に反映できるように努めております。	利用者一人ひとりについての課題検討用紙、人生経歴書などを活用し、介護計画書作成に反映している。毎月、居室担当者がモニタリングを行い、介護計画担当者と情報を共有し、3ヶ月毎に介護計画の評価を行っている。家族や看護師、主治医からも意見を聞き反映している。『介護は向き合うのではなく寄り添うことが大切』と、認識しながら介護計画を作成している。作成後は、家族に送付し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、変化等を帳票記入し申し送り等を通じて情報共有し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に、外来受診等を御家族様にお願いしておりますが都合上困難な場合は職員が対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	南光台地域包括支援センター定期交流の場において地域資源の把握に努めております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、変化等を介護サマリー提出など行い適切な医療を受けられるように努めております。	入居前からのかかりつけ医に家族が付き添い受診している。受診時には、利用者の状態等の情報提供を行っている。状況により家族の代わりに職員が同行し受診する場合もある。訪問歯科も受診できるように連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護ST看護師の来所時に、変化、報告を行い必要時の受診依頼や看護を受けられる体制に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	開設前後から医療機関との関係作りを始め受け入れ態勢の報告等、関係作りを構築しております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時においてご家族、ご本人が望まれる終末期において希望を取り入れるべく説明しております。	看取り指針を作成し、入居時に説明を行い看取りを行っている。主治医が終末期と判断した際、カンファレンスを行い体制を整えている。状態に合わせて往診もできるよう地域のクリニックとの連携も図っている。看取り期は、往診医、看護師、職員間で情報共有を行い、家族の面会や付き添いが出来るよう支援している。看取り後は職員間で振り返りを行い、改善点を見つける機会を設け、ケアの質の向上を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時の救急訓練を始め定期研修の中で行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練等を通じ職員全体が認識できるように努めております。	火災・風水害等のマニュアルが整備されている。自力での避難が難しい利用者を避難させる訓練や連絡網の確認を行っている。隣接の老人保健施設とは、共同で備蓄や緊急時に備えた学習会を行うなど、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期研修(接遇)において理解を深め、又日々の関りの中での声かけ等には十分に留意しております。	隣接する同法人の施設と合同で、プライバシーの保護・人権尊重について研修会を開催している。併せて、接遇をテーマに介護福祉サービス業としての心構えや対応についても学んでいる。「ちょっと待ってね」など、スピーチロックの事例を上げ、改善策を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いが表現出来るように普段から関係性作りに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先ではなく、ケア優先の必要性を日々職員間で共有し実践しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る部分を阻害する事無く状態に合わせた支援に努めております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分の見極め、状態に合わせた食事の提供に努めるべく行っております。	事業所開所時に、食事提供方法について(独自調理や委託)検討し、その結果、隣接する同法人の施設に委託し提供している。職員は食事作りなどの時間が無くなり、利用者の介護に専念できている。利用者が茶碗ふきなど、出来ることに関われるように支援している。利用者が希望した「ねぎとろ丼」を取り入れた際に、食欲が戻ったとのエピソードもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食事を提供し状態に合わせたカロリーが摂取出来るよう栄養補助食品等を使用し体調維持に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時に応じ訪問歯科診療を受け出来る部分を阻害する事無くケアの実践をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なポータブルトイレを使用する事無く出来る部分を阻害する事無く排泄が出来るように支援しております。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを確認し、タイミングに合わせトイレ誘導している。利用者一人ひとりの状態に合った排泄グッズを活用している。便秘傾向の人には乳製品を摂り入れたり、状態によっては医師から処方された薬を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケア記録、申し送り等から排泄状況を把握して必要時に排便を促すお茶等の提供と日々の体操を行っております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調から又は拒否等もあり定期入浴ができない場合、又は希望に沿った入浴が出来るよう柔軟な支援に努めております。	週2回を基本に午前中、入浴支援を行っている。浴槽をまたぐことが出来ない人や、膀胱留置カテーテルを使用している人には、シャワーチェアを使用し安全に配慮しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた就寝時間帯の支援、安心できる環境と声かけに努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会の委員が処方箋管理を行い処方薬変更の場合の職員共有に努め、用法、用量については職員全体が共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、笑顔が出せるような、雰囲気作り、楽しみを日々の関り、又はレクリエーション・活動で行っております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	閉鎖的になりがちなホーム生活を御家族と協力しながら本人の希望が叶えられますよう支援を行っております。	コロナ禍のため、定期受診以外の外出は行っていない。コロナ禍以前は、近隣を散歩したり、市民センターの図書室に本を借りに出掛けるなどの外出支援をしていた。また、隣接の施設と連携し送迎バスにより花見や多賀城の菖蒲園にも出掛けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金体制は行っていませんが少額のお金を所持する事は厭わず支援に努めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からのお手紙、馴染の関係からの封書等の支援を行っております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に合わせた居室ドアの不快な光等を遮り共有スペースにおいては季節感が味わえるように配慮しております。	新型コロナウイルス感染症予防のために非接触体温計、アルコール手指消毒を設置し、感染対策を徹底している。テーブルが分割可能となっており、いろいろな形を作ることができ、利用者同士の相性を考慮して席の配置を決めている。共用空間は夜間も照明を点けるなど、緊急時でも危険がないよう安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置等、利用者様に合わせて提供出来るように支援を行っております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人に合わせた家具等が使用できるよう説明し好みに合わせた配置等を行っております。	居室には低床型ベッド、クローゼット、洗面台が設置されている。自宅で使用していた馴染みタンスなどを持参している。居室の入り口には利用者の表札があり、自分の居室がわかりやすいように配慮している。室内は、利用者の手作りした作品など自由に飾られている。褥瘡予防に重度者用のエアーマットレスが準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、居住スペースのバリアフリーはもとより状態に合わせ自立した生活が出来るような構造になってます。		